

第6節 県内におけるばい煙発生施設数等の年度別推移

1 ばい煙発生施設数の年度別推移

種 類 \ 年 度	18	19	20	21	22
ボ イ ラ ー	2,004	1,977	2,002	2,021	2,052
金 属 溶 解 炉	167	167	167	177	175
金 属 加 熱 炉	159	168	172	171	171
焼 成 炉 ・ 溶 融 炉	73	72	78	78	75
乾 燥 炉	102	100	100	96	94
電 気 炉	23	22	23	23	23
廃 棄 物 焼 却 炉	56	57	58	57	54
銅・鉛・亜鉛精錬用施設	3	3	3	3	3
塩素・塩化水素反応施設	68	66	58	59	59
ガ ス タ ー ビ ン	81	83	89	87	87
デ ィ ー ゼ ル 機 関	276	276	280	282	282
そ の 他	52	53	54	57	63
合 計	3,064 (100)	3,044 (99)	3,084 (101)	3,111 (102)	3,138 (102)

注 () は、18年度を100とした指数である。

2 燃料使用量の年度別推移

(単位：千 kL)

燃料の種類		年 度				
		18	19	20	21	22
A	重油	224 (100)	206 (92)	197 (88)	188 (84)	198 (88)
C	重油	243 (100)	517 (212)	384 (158)	190 (78)	178 (73)
	原油	195 (100)	328 (168)	237 (122)	75 (38)	130 (67)
	石炭等※	864 (100)	880 (102)	888 (103)	500 (58)	604 (70)
小	計	1,526 (100)	1,931 (127)	1,706 (112)	953 (62)	1,110 (73)
	灯油	304 (100)	296 (97)	269 (88)	307 (101)	330 (109)
	軽油	360 (100)	348 (97)	317 (88)	314 (87)	336 (93)
	ガソリン	549 (100)	548 (100)	524 (96)	541 (99)	552 (101)
合	計	2,739 (100)	3,123 (114)	2,816 (103)	2,115 (77)	2,328 (85)

注 1 この表は、石油連盟及び県内事業所の資料を基に集計したものである。

2 () は、18年度を100とした指数である。

3 石炭等は、石炭及びコークス、オイルコークスの使用量をそれぞれ重油相当に換算し、これらを合計した量である。

3 自動車保有台数の年度別推移

(単位：台)

用途、種類		年 度				
		18	19	20	21	22
貨物用	普通車	29,228	28,730	27,597	26,624	26,262
	小型車	48,625	46,963	44,901	43,083	41,650
	被けん引車	941	935	958	908	903
	軽自動車	98,474	97,380	96,200	94,701	93,299
乗合用	普通車	847	828	811	813	824
	小型車	1,441	1,425	1,383	1,353	1,346
乗用	普通車	149,255	150,539	150,420	152,643	155,204
	小型車	308,691	300,370	294,391	289,158	284,184
	軽自動車	202,033	210,608	219,470	225,896	232,313
特種用途車		18,591	19,636	19,412	18,133	18,162
二輪車		20,039	20,274	20,622	20,782	20,797
総数		878,165	877,688	876,165	874,094	876,190

注 北陸信越運輸局富山運輸支局調べによるもので、それぞれ年度末現在の台数である。